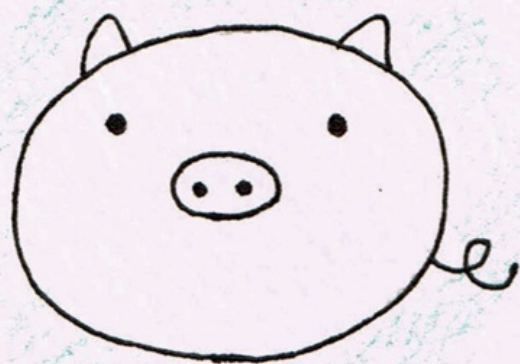
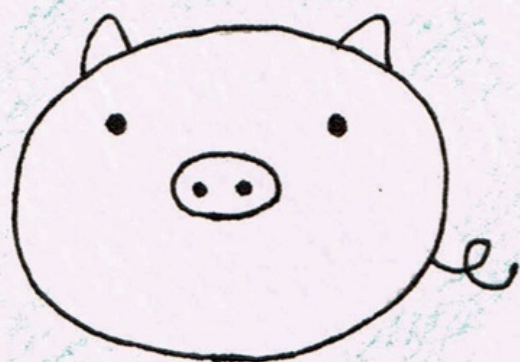


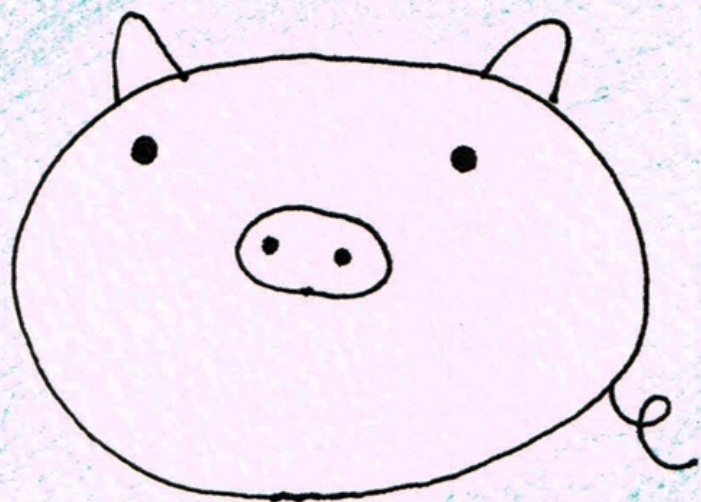
かみかきの日



かみかきの日



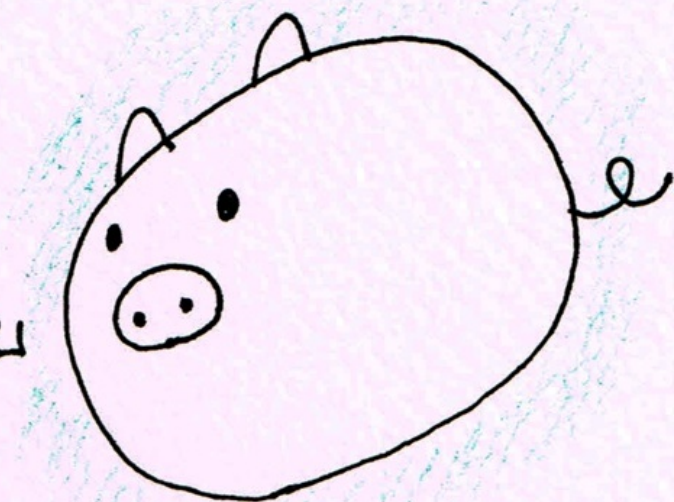
ゆめみるぶたはま、いってまだ夢をみていません。



ゆめみるブタは 夢をさがす 旅にでます。

「ぼくだけのユメを

みつけるんだっ！」



ある日、大きな青い空をじゆうにとんでいる
とりがいました。



「いいなま〜

ぼくもとびたいな」



ゆめみるゴタは自分だけの夢を見つけました。

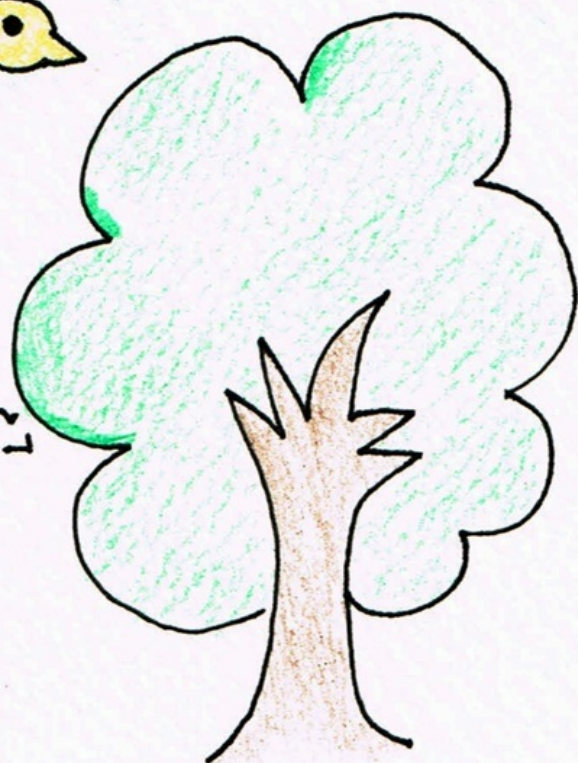
ゆめみる ぶたは とりを おいかけます。



「とりさん みたいい」

「ぼくも とべるかた〜」

「あ、！ とりさんが 木にとま、たり」



ゆめみるぶたは おおきく息をすいこみます、



「とりせんが」とまった木だから、きくとべるぞ！」

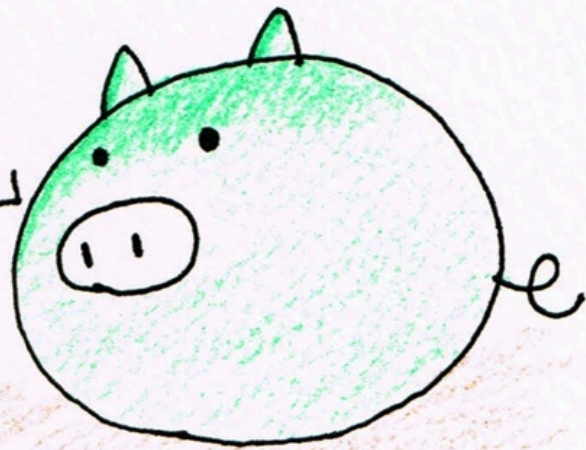
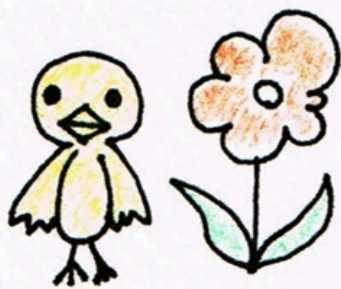
すると...

ゆめみるゴタ はみるみるうちにみどりに

「これで、とべるのかなあ」

でも、ち、は、り とべません。

「あ、また
とりさんだあ」



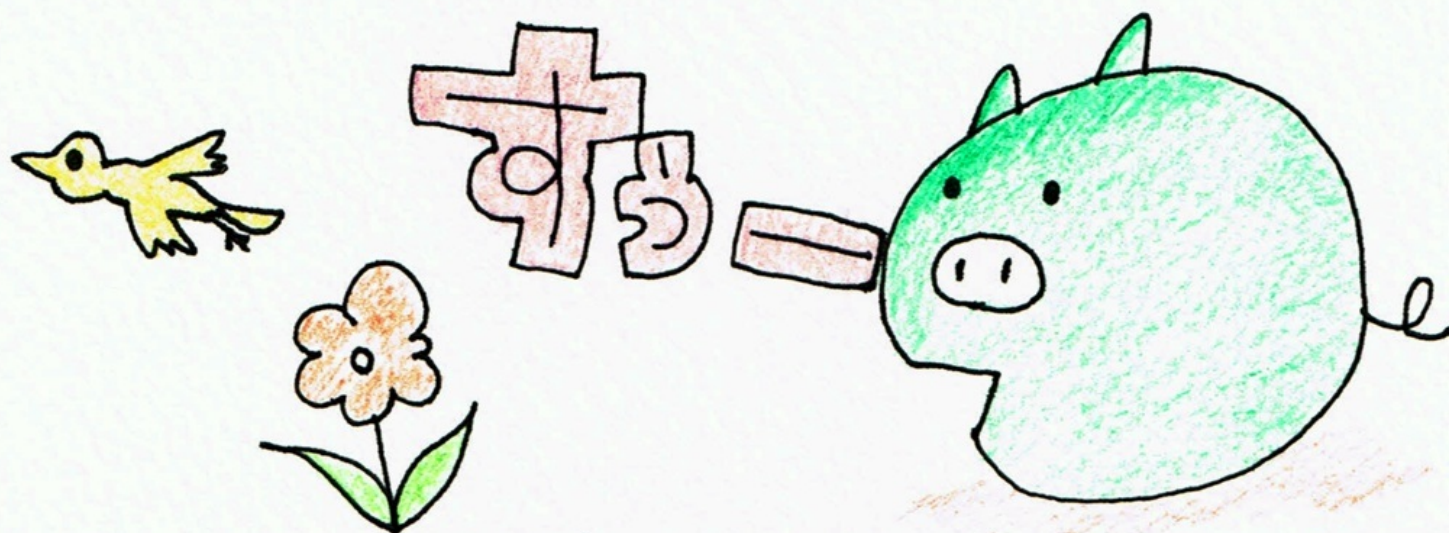
ゆめみるゴタ は まだまだ とりを

おいがけます。

ゆめみるグタは また おおきく息をすいこみます、

「あのお花、とりせんがみてたから、き、と

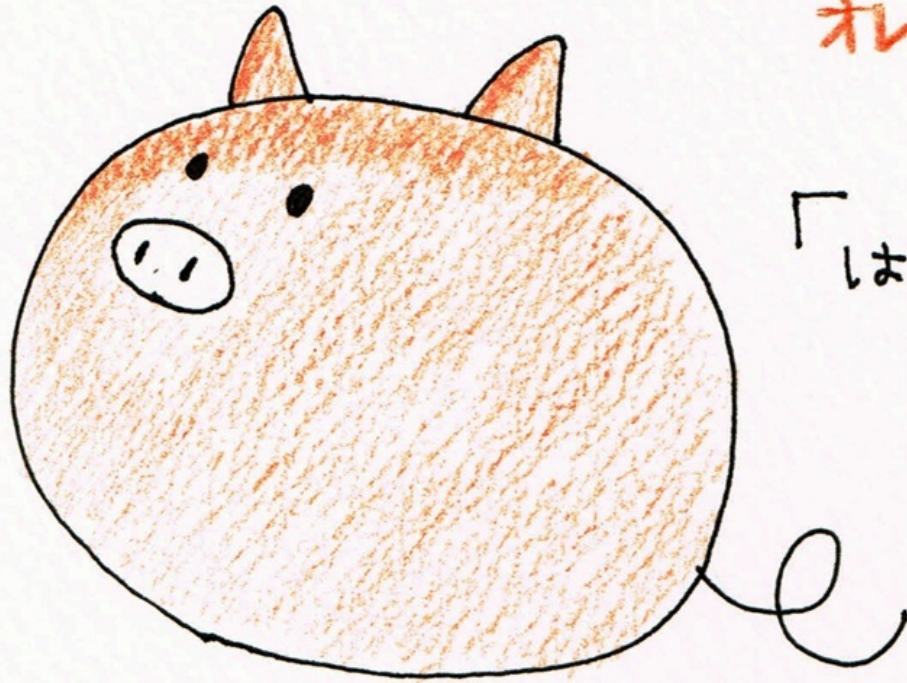
とべるぞ！」



すると、今度は

ゆめみるぶたはみるみるうちに花の

オレンジ色に



「

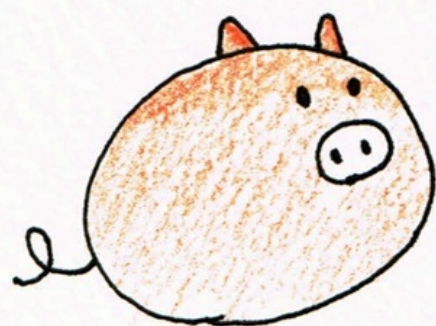
はやく

とみさんみたいに

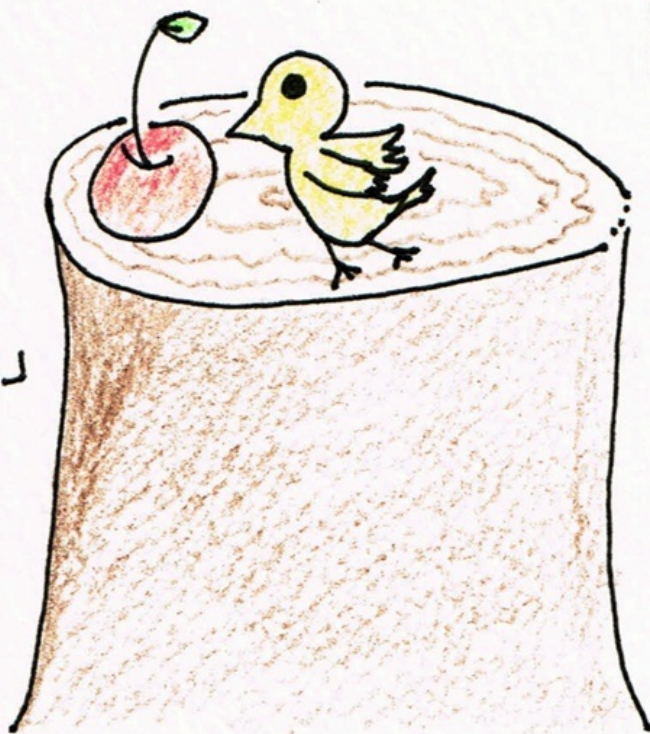
とびたいなあ〜」

それでも、ち、は、り とびません。

こんどは 赤い実を たべている とりを
みつけました。

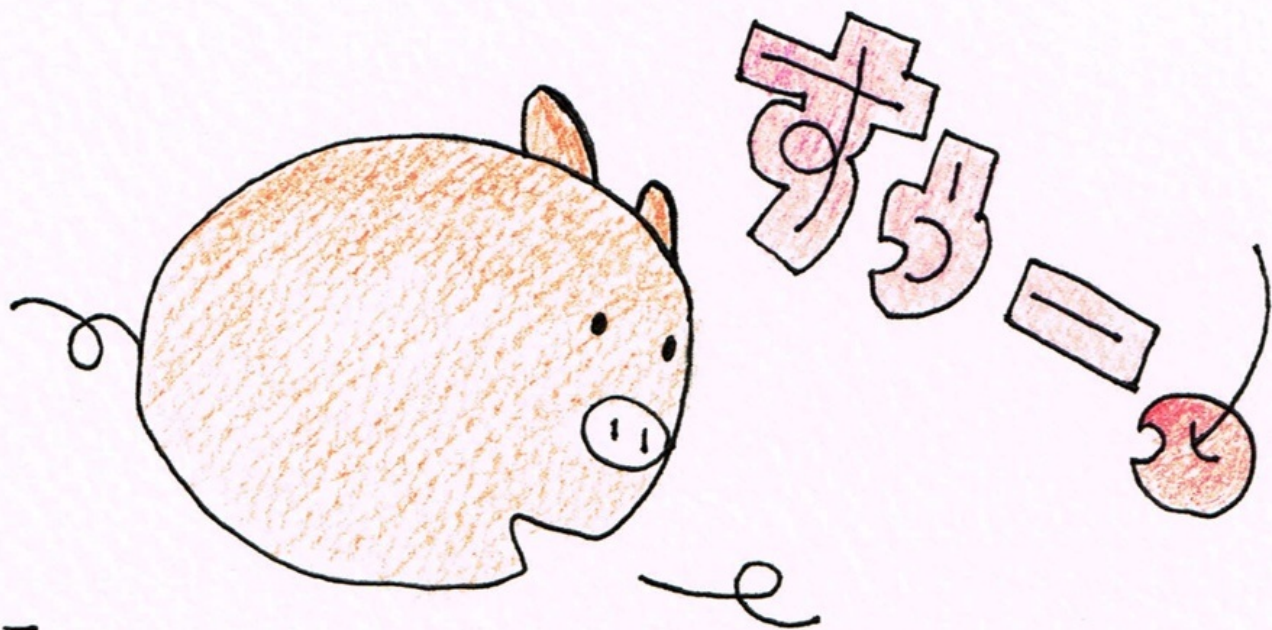


「おいしいよな
実だよっ」



ゆめみるグタは まだまだ、また、とりをおいかけます。

ゆめみるゴタは また また おおきく息をすいこみます。



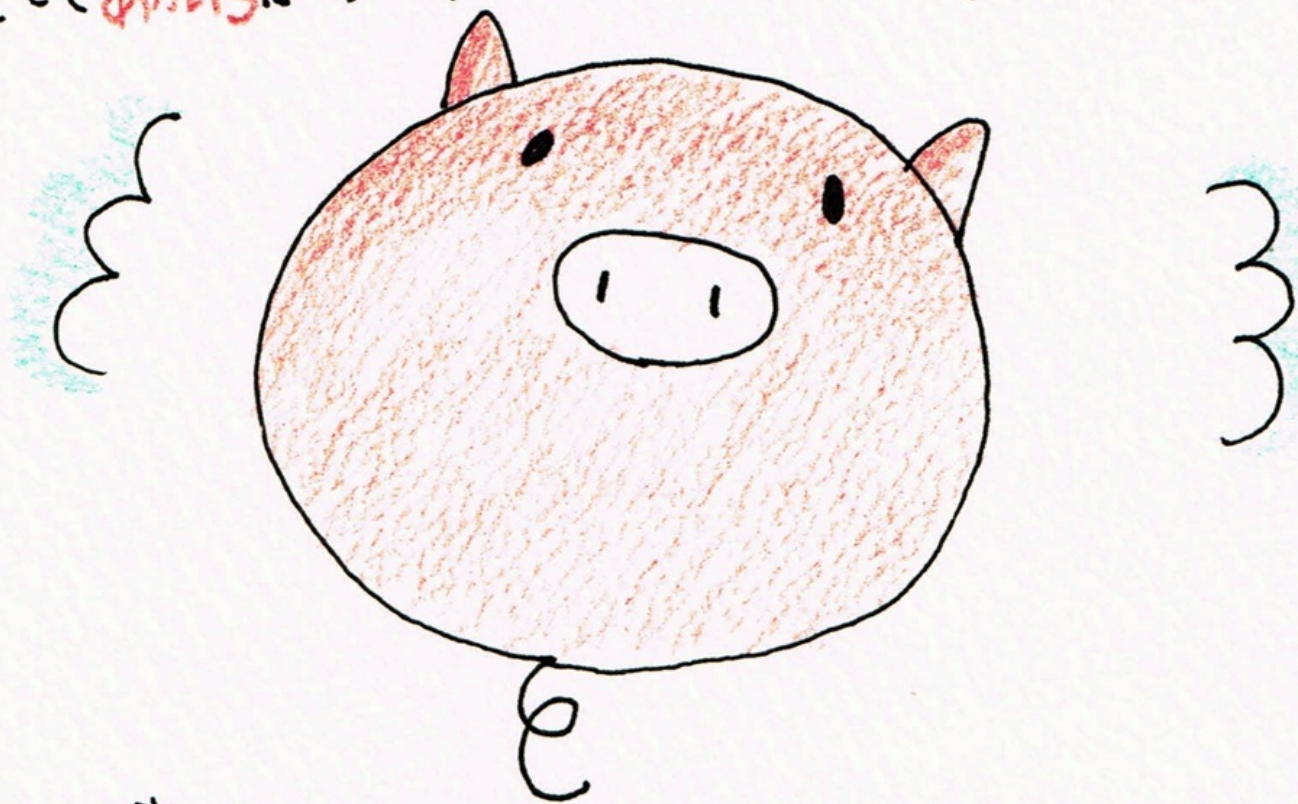
「とりさんが たべた

実だ！ はやく とびたいなあ〜」

それでも... やっぱり

とべるはずもありません△

そしてあかい子はおた、ゆめみるぶたはあもいました...

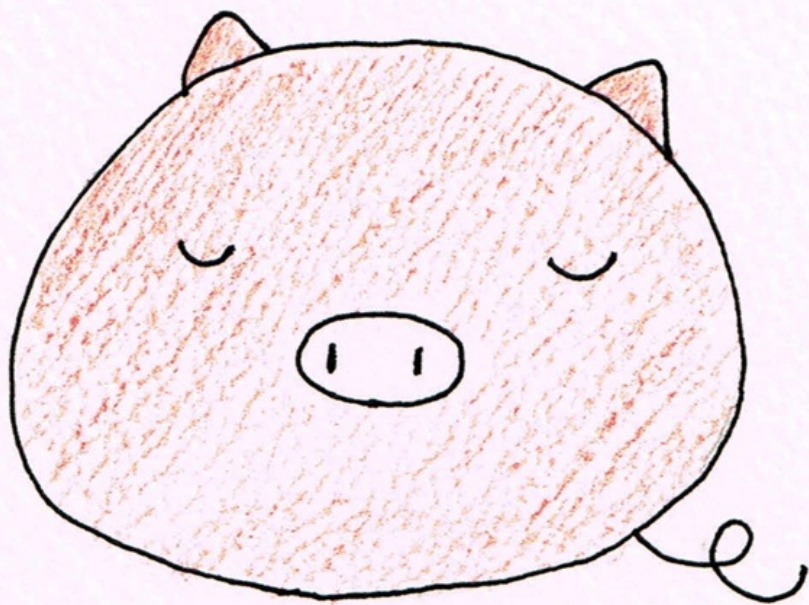


大きな青い空をじゆうにとんでるとりをみつめて

た<さん た<さん すいこんで"

た<さん た<さん 変わったけれど"...

ふふ



ゆめみるグタは ああ、きなため息をつきました。



「どんたに とりさんを
おいがけても ...
ぼくなんかじゃ
とべるわけないんだ」

ゆめみるブタの目から おおっぶの涙が ほろりほろり

そんな けめめる ぶたに

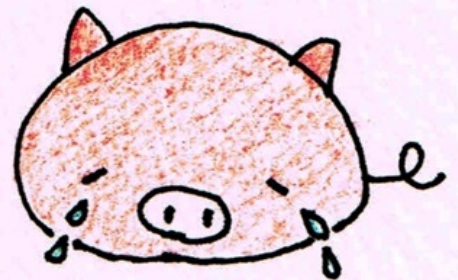
空から やさしい こえがします



「どうして、おいているの？」

そのこえは けめめる ぶたが

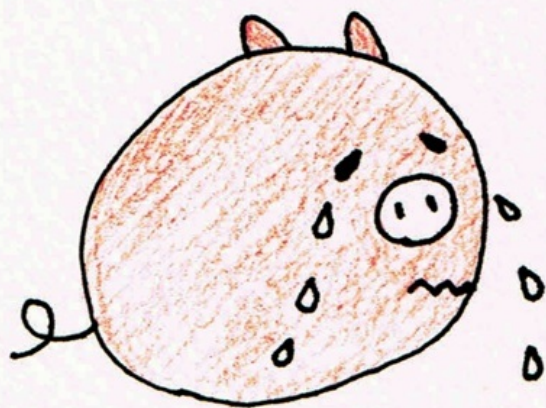
おいかけていた とりでした。



ゆめみる ぶた は とり に いい ます。

「ぼくは... とりさんみたいにとびたいんだ。」

でも 何をしても タ× たんた。」



あちから あちから

あちからぶの三原が”びんびん”あふれてきます...

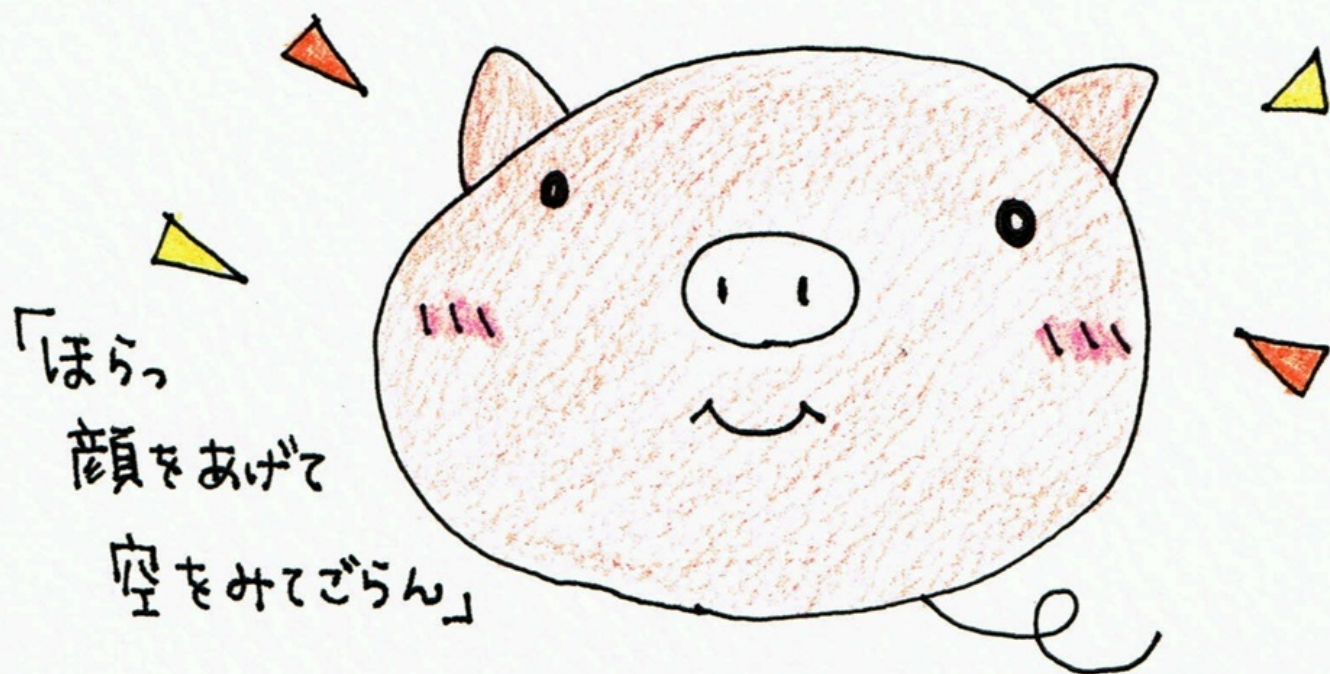
すると、とりがやさしくかたりかけます



「たくさん変われる
あてきな君は
そのままがいいんだよ」

ゆめみるぶたはみるみる笑顔になりました。

三原のたま、たぶたにとりはいます。



ゆめみるぶたはさいごにおおきく息をすいこみます。

ゆめみるぶたはみるみる**おかし**になていきます。

「とりさん、ありがとうっ」

「とべないけど」...

ぼくは、ぼくのままぞ

いいんだね♡」



ゆめみるぶたは空をとんでるようだ

幸せなきもちでいっぱいになりました。

お・し・ま・い

